

エネルギー高騰と需給悪化で揺れる欧州化学

◆ 欧州化学産業、競争力低下が続く

欧州の化学産業団体であるEuropean Chemical Industry Council (Cefic) は2025年9月2日、欧州化学産業の25年第2四半期トレンドレポートを発表した。レポートでは、欧州化学産業の25年第2四半期における競争力は14～19年を下回っているとしている。

競争力が低下した原因として、天然ガスを中心としたエネルギー価格の高騰によるコスト増加、欧州の化学品需給悪化を挙げている。25年1～7月に欧州の天然ガス価格は、米国と比較して約3倍高くなり、欧州の産業は生産コスト増加で、不利な状況となっている。欧州と競合国における天然ガス価格差は、25年以降も継続するとしており、欧州の産業が不利な状況は変わらないと予想している。また、エチレン、プロピレン、アンモニアなどの基礎化学品は、大量生産による安価な中国品流入による需給悪化の影響が大きいとしている。

化学産業ではナフサクラッカーの稼働率が22年以降、75%前後となっており、好不況の目安とされる90%を大きく下回っている。基礎化学品を利用する川下のユーザーも振るわない。例えば、自動車の生産台数は24年と比べて4.5%の減少となっている。

◆ 欧州で化学プラント閉鎖発表が相次ぐ、欧州委員会は支援策で対応へ

欧州ではエネルギー価格高騰、需給悪化の影響を受けて、基礎化学品などの化学プラント閉鎖が相次いでいる。表1に25年に欧州で閉鎖が発表された年間生産量10万トン以上の化学プラントをまとめた。米国のDowは欧州で3地域において化学プラントの閉鎖を発表し、英国のINEOS、フランスのTotalEnergiesなども25年に入って化学プラントの閉鎖を発表している。23～24年にかけても、欧州では約20ヵ所の化学プラントが閉鎖されている。25年7月にINEOSの広報担当幹部はプレスリリースで、化学産業の投資と雇用は、製造コストが安く、産業支援政策のある地域にシフトするだろうとし、欧州で化学プラント閉鎖が続く可能性を示唆している。

欧州委員会は25年7月8日、苦境に陥っている欧州の化学業界に域内プラントの維持と設備更新に向けた支援策を発表している。支援策は主に4つで、重要化学品製造への政策的および財政的支援、エネルギー価格対策および脱炭素化支援、新技術市場の創出支援、規制の簡素化である。

表1、25年に閉鎖が発表された欧州の化学プラント（10万トン/年以上）

会社	国	地域	プラント	生産量[万トン/年]
Dow	ドイツ	Böhlen	ナフサクラッカー	54.0（エチレン）
Dow	ドイツ	Schkopau	水酸化ナトリウム	25.0
Dow	ドイツ	Schkopau	二塩化エチレン	74.0
Dow	英国	Barry	シロキサソ	14.5
INEOS	ドイツ	Gladbeck	フェノール	65.0
TotalEnergies	ベルギー	Antwerp	ナフサクラッカー	57.0（エチレン）
LyondellBasell/Covestro	オランダ	Rotterdam	酸化プロピレン	32.0
LyondellBasell/Covestro	オランダ	Rotterdam	スチレン	64.0
Huntsman	ドイツ	Moers	無水マレイン酸	10.5

出所：各社プレスリリースからARC作成

◆ 欧州化学産業の生き残りをかけた対応は進むか

化学プラント閉鎖の相次ぐ欧州だが、INEOSは、ベルギーのAntwerpで、建設費40億ユーロを投じて、年間生産能力145万トンのエタンクラッカー建設を進めている。22年から建設を開始し、27年初頭のプラント立ち上げを予定している。エタンを原料とすることで、安価にエチレンを製造することができ、生産能力も欧州の平均的なナフサクラッカー2～3基分に相当するためスケールメリットが大きい。INEOSのエタンクラッカーは、停止した化学プラントの生産能力を統合し、生産コストを下げるモデルケースになると思われる。

欧州化学産業の生き残りをかけて、停止する化学プラントの生産能力をどのように補うかは、個々の企業だけで解決する事は難しく、欧州全体でバランスを取って対応する必要があるだろう。化学プラントのダウンサイジングによる稼働率向上、廃プラ由来原料を用いた高付加価値品製造による採算性向上なども効果的と思われる。個々の状況により、様々な方法を組み合わせることが生き残りにつながるだろう。欧州委員会の支援策も最大限活用し、既存の化学産業をどこまで生かしていけるか、欧州化学産業の動きは目が離せない。 【岩貝和幸】